

作成したファイルの保存・バックアップ

最近のパソコンは比較的大きな容量のメモリ装置(内蔵型ハードディスク)を持っていて、ファイルの大きさを気にせずに気軽に保存しておけるので大変便利です。しかし、何年も使用しているうちにクラッシュしてパソコンが全く起動しなくなることがあるので、大事なデータは外部メモリ装置にも保存しておく必要があり、外部記憶装置にファイルのコピーを作ることをバックアップと云います。

1. パソコンの内蔵ハードディスクがクラッシュした場合の復元方法:

- (1) パソコン故障の原因を調査し、内蔵ハードディスクのクラッシュが原因の場合は、クラッシュしたハードディスクを新品に入れ替える。
 - (2) WindowsやOffice(Excel, Wordなど)などのシステムファイル: パソコン付属のCDやDVDから再インストールして設定し直す。(パソコン購入時の付属CD,DVDなどは大切に保存必要)
 - (3) データファイル(Excel, Wordなどで作成したファイルやデジカメで撮影した写真など): 大事なファイルはあらかじめ外部メモリ装置に保存しておき、上記(1)(2)の後で外部メモリ装置からパソコンにそのデータファイルをコピーして張り付ける。
- (備考)ハードディスクが故障しパソコンを起動できなくなっても、データファイルは読み取れることもあるので、状況に応じ専門家に調査してもらうとよい。

表1 いろいろな外部記憶装置

No	外部メモリ	容量	速度	持ち運び
1	フロッピーディスク	×	×	
2	CD-R, DVD-R		×	
3	USBメモリ			
4	ポータブルHDD			
5	HDD			×

2. データ保存・バックアップ用の外部記憶装置:

外部メモリとしては右表のようにいろいろなものがあるがNo.1, No.2は容量が小さいので、バックアップ用としては適していない。No.3, No.4が使い易く、もっと本格的にはNo.5が使用されます。



USBメモリは表1のように使いやすい特徴を持っているが、比較的値段が高いのが難点です。ハードディスク(HDD)タイプと違って振動や衝撃にも強いので、データ持ち運びには最適です。

3. USBメモリーやHDD記憶装置などの詳細情報： 次のURLで詳しい情報が得られます。

- (1) バッファローホームページ：<http://buffalo.jp/>
- (2) アイ・オー・データ機器ホームページ：<http://www.iodata.jp/>
- (3) エレコムホームページ：<http://www.elecom.co.jp/>

気軽に利用したい方は...
スタンダードタイプ



パソコンのUSBコネクタに差し込むだけで簡単に使うことができます。カラー・デザインも豊富ですのでアクセサリ感覚でお選びいただけます。

とっても簡単！

情報漏洩が気になる方は...
高セキュリティタイプ



データを保護する高度なセキュリティ機能がついていますので、万一の紛失や盗難でもデータを読み取られる心配がありません。データ漏洩に敏感な企業での一括導入などにもお勧めです。

万一の時も安心！

画像などの大容量データを取り扱う方は...
高速+高セキュリティタイプ



大容量データも高速で転送できますので、忙しいビジネスマンの方、画像や写真を保存して持ち歩く機会が多いクリエイターの方などに最適です。

大きなデータも5くらと転送！

4. USBメモリーへのデータ保存： Cドライブの「マイドキュメント」内のファイルを保存します。

- (1) USBメモリーを取り付け、「スタート」を右クリックして「エクスプローラ」を起動。
- (2) 「エクスプローラ」でUSBメモリーのドライブを選択して、保存する場所(ディレクトリ)を作成。「ファイル」「新規作成」「ディレクトリ」とし、例えば、「20090509backup」を作成する。
- (3) 「デスクトップ」「ドキュメント」または「マイドキュメント」内のファイルからバックアップしたいファイルを選択し、「編集」「コピー」とする。
- (4) 「エクスプローラ」で、USBメモリーのドライブを選択して、(2)で作成した新しいディレクトリ(ここでは「20090510backup」)を選択後、「編集」「貼り付け」とする。
- (5) 画面右下の常駐アイコンから「ハードウェアの安全な取り外し」()を使用しUSBメモリーを外す。

5. USBメモリのウイルス対策ほか： USBの使用が一般化するにつれてUSBメモリーを対象に、ウイルスも出回り始めており、次のように注意して使用する必要があります。

下記(1)～(4)は、「TREND MICRO」の「USBワーム」記事による。「USBワーム」で検索すると関連記事が見つかります。<http://jp.trendmicro.com/jp/home/>

- (1) 出所不明のUSBメモリーは使用しない。
- (2) 信頼できないPCではUSBメモリーを使用しない。
- (3) USBメモリーを使用する際、「マイコンピュータ」からではなく「エクスプローラ」で開く。
- (4) Windows VistaではUSBメモリーを接続すると「autorun」を自動実行する機能があるので、自動実行しないよう設定しておく。(「コントロールパネル」「ハードウェアとサウンド」「CDまたは他のメディアの自動再生」で「何もしない」に設定しておくことで、自動実行機能がオフになる)
- (5) USBメモリーについても時々ウイルスチェックを行う。
- (6) USBメモリーは小型で持ち出しが容易であり、紛失しやすくなることも考えられます。管理に十分配慮し、個人情報が入っている場合はデータを暗号化する方式にすると安全です。

6. 本格的なバックアップ： ハードディスク(HDD)タイプの大容量記憶装置を利用すると、PCのシステムファイルとデータファイルを含めてPC全体をそっくりバックアップすることもできます。